

## 香川県農業・農村審議会議事録

- 1 日 時：平成 27 年 5 月 13 日（水） 15 時～16 時 40 分
- 2 場 所：香川県庁 北館 3 階 304 会議室
- 3 出席者：片岡会長、大山委員、香川委員、加藤委員、田中委員、田渕委員、  
月山委員、橋田委員、広野委員、三笠委員、三原委員  
(会長以外は 50 音順)

### 4 議 題

- (1) 香川県農業・農村の今後のあるべき姿について
- (2) 新たな香川県農業・農村基本計画の骨格について

### 【議事要旨】

- 香川県農業・農村の現状と課題について  
事務局から、資料 1 に基づいて香川県農業・農村の現状について説明するとともに、資料 2 に基づいて香川県農業・農村の課題について説明した。
- 香川県農業・農村の今後のあるべき姿と新たな農業・農村基本計画の骨格について  
事務局から、資料 3 に基づいて香川県農業・農村の今後のあるべき姿について説明するとともに、資料 4 に基づいて新たな香川県農業・農村基本計画の骨格について説明し、その後、審議委員からご意見・ご提言をいただいた。

主な意見は次のとおり。

### ○委員

資料 3 の「香川県農業・農村の今後のあるべき姿」と資料 4 の「新たな香川県農業・農村基本計画の骨格」については、よく整理されており、これでよいと思う。

新たな基本計画では、骨格の 2 つ目の柱である「消費者ニーズに即した魅力ある農産物の生産・流通・販売」に大きなウェイトが置かれるのではないかと。何を作ったらよいのか、それがハッキリすれば、必要な生産基盤も決まる。現在の消費者ニーズに合わせるだけでなく、消費者ニーズを創り出すような価値のある農産物生産を考えてもらいたい。

また、水産業基本計画も別途、作成されると思うが、住民から見ると、食料供給ということでは共通している。そういった住民の視点も意識してもらいたい。

→ (事務局)

- ・ 現場に出向くと、儲かっている経営体には、必ずと言っていいほど、後継者が帰ってきている。農業を持続的に発展させていくには、農業収入で利潤が得られるような経営体を育成することが重要である。そのためには、利潤をあげられる農産物を生産することが重要であり、そのことが、農業生産の拡大や担い手の増加につな

がると考えられる。高齢化社会を見据え、今後は健康志向がより高まると考えており、美味しさだけでなく、健康面に貢献する農産物についても考えてまいりたい。

- ・ また、新たな水産業基本計画についても、別途、検討しているが、上位計画である県の次期総合計画や総合戦略では、農林水産業の振興や農山漁村の活性化について、一体的に検討しているところ。

#### ○委員

消費者ニーズも2極化しており、少しでも安いモノを求める消費者と、高くても高品質なモノを求める消費者がいる。生産者としては、どちらの層をターゲットに捉えるべきか、経営判断が問われるところ。

また、この農産物には、このような健康によい成分が含まれている、というデータを示してもらえたら、販売に役立つと思われる。

→ (事務局)

- ・ 本県のブランド農産物にも、「おいでまい」や「さぬきの夢」、「さぬき讚フルーツ」、「オリーブ牛」など高品質で特色のあるものと、レタスやブロッコリーのように一定の品質を保った上でロットを確保して市場向けのブランドを目指すもの、2つのカテゴリーがあると考えており、そういった観点で、どこの誰をターゲットとするかなど、販売・流通について戦略的に考えているところ。
- ・ また、県で機器を購入し、農産物の機能性に係る成分等について分析する予定であり、結果を現場にフィードバックしたい。

#### ○委員

機能性については、根拠を示して安全性・機能性を保証する必要がある。今後は、そうした観点のもと、機能性のある、また競争力の高い農産物の育種に向けて、生産者の意見も踏まえながら、研究開発に取り組む必要がある。

#### ○委員

魅力ある農業の実現のためには、高品質で高く売れるモノを作っていく必要があるとは思いますが、香川県民が置き去りにされることのないように留意してもらいたい。県内では、高品質で健康によいものを求める人もいれば、今日を生きるために一生懸命に頑張っている人もいます。こうした現実を踏まえて、新たな基本計画では、消費者が安心できるような項目も加えてもらいたい。

→ (事務局)

- ・ 農産物の販売戦略について、トップクラスの高品質のものは、できるだけ高値で売れるように、県内はもとより、大都市圏や海外の富裕層を主なターゲットに捉えている。また、一方で、地産地消をより一層推進し、県民の皆様にも、新鮮で顔の見える値頃感ある農産物をお届けすることも重要であると考えている。

- ・ また、新たな香川県農業・農村基本計画では、基本方針の一つに、県民への貢献を掲げたいと考えており、県民の豊かな「食」と「暮らし」への貢献という観点からの施策を打ち出していきたいと考えている。

## ○委員

新規就農者が大幅に増えており、よいことではあるが、定着しているのか。

輸出について、少しは高く売れるとは思いますが、日本で作ったモノは日本で消費するのが一番よいと思う。日本の農産物をコストをかけて海外へ輸出し、日本国民は輸入品を食べるといえるのはいかなものか。

また、家畜伝染病について、台湾でも口蹄疫が発生しているので、水際対策をしっかりとやってもらいたい。国がやるべきところではあるが、県としても力を入れてもらいたい。

→ (事務局)

- ・ 本県の新規就農者の定着状況について、自営就農者の定着率は96%である一方、雇用就農者は約4割が就業先を退職している。その原因として、雇用の場合、賃金水準や労働環境について、他の産業での雇用との比較といったことが考えられるが、さらに分析して、就農者が定着できるよう考えてまいりたい。
- ・ 輸出については、少子化や高齢化により国内市場が縮小する中、農業所得の向上を図るためには、海外への販路拡大も必要と考えている。例えば、オリーブ牛は国内でも比較的高値で販売されており、特に、オリーブが身近にあるヨーロッパにおいては、さらに高値で販売される可能性を秘めているのではないかと思う。こういったことも視野に入れて、国内での販路定着に加えて、海外への販路拡大にもチャレンジしていきたい。
- ・ 国外からの鳥インフルエンザや口蹄疫など家畜伝染病の水際検疫としては、高松空港に設置している農林水産省動物検疫所（関西空港小松島出張所高松空港分室）が周辺諸国の発生を踏まえ、渡航者への注意喚起や入国者への質問、靴底消毒、携帯品検査等を行っている。県としては、ゴールデンウィーク前の4月21日に高松空港に出向き、靴底消毒等の体制の確認を行うとともに、水際検疫の徹底を検疫官にお願いしたところ。また、畜産関係者に対し、本病の発生地域への渡航の自粛要請と過去1週間以内に海外から入国した者は農場へ立ち入らせないよう指導するなど、侵入防止対策の徹底を図っているところである。

## ○委員

食育が重要であると思うので、力を入れてもらいたい。当研究室に、昨年度、さぬき讚フルーツ大使を務めた学生がいるが、大使を経験したことにより、香川県の農産物をよく理解できたようだ。また、どこへ行けば県産ブランド農産物を買えるのか、わかりやすく情報発信してもらいたい。

ふるさと納税について、お礼として地元の農産物を送る市町もあるようだが、こうした

取組みも県産農産物の宣伝になるのではないか。

→ (事務局)

- ・ 子供の頃に農業に触れて、地元の新鮮な農産物を食べてもらう経験が重要であると考えている。地域の農家で農作業を体験し、収穫した農産物を給食に出す学校もあるので、こうした取組みを増やしていきたい。
- ・ 県産農産物の取扱店については、県のホームページなどで情報発信しているが、よりわかりやすくお伝えするよう努めてまいりたい。
- ・ ふるさと納税については、県においても、讃岐うどんやさぬき讃フルーツなどを返礼品として贈呈している。

#### ○委員

香川県では糖尿病の割合が高いということもあり、お店のメニューに県産野菜を使った「野菜うどん」を考えているところ。

→ (事務局)

県では、野菜の摂取量を増やすための取組みを進めており、うどん店での取組みは大変有難い。

冬季の「しっぽくうどん」は、野菜がふんだんに使われ、栄養バランスがよいと思うので、その夏季バージョンを考えていただけると、なお有難い。

「以 上」